

亀山殿かめやまどの旧跡〔又嵯峨殿さがどのとも称す、東は今の天龍寺方丈を際り、南は大井川、西は亀山、北は野宮のみやを限る〕

増鏡云 さがの亀山の麓、大井川の北の岸にあたりてゆ、しき院をぞつくらせ給へる。をぐらの山のこずゑ戸難瀬となせの滝たきもさながら御垣みかきの内に見へて、わざとつくろはせぬせんざいも、をのづから情をくはへたる所がら、いみじき絵師といふとも筆およびがたし。同書云、しんでんのならひには、いぬゐにあたりて西に薬草院やくさうあん、ひがしに如来寿院にらいしゆなどいふもあり、天王寺てんわうじの金堂うつさせ給ひて多宝院とかやたてられたる、大多勝院と聞ゆる寝殿しんでんの御持仏すへ奉らせ給へり。同書云、亀山殿の棧敷殿さじきどのに九月十三夜御歌合せたまふ。

山の紅葉

外よりはしぐれもいかゞ染ざらむ我うへて見る山の紅葉ば 本院御製

かめ山の仙洞にて

わが宿のものかあらぬかあらし山あるにまかせて落る瀧津瀬 亀山太上天皇

永仁元年亀山殿十首に河上暮秋

大る川ながれてはやき木葉にもとまらぬ秋の色は見えけり 左大臣

亀山宮

かめのをの千世のためしのごきなく山の岩ねに宮作りせり 為家